BOSE®

OWNER'S MANUAL

アメリカンサウンドシステム

AMS-D

この度はAMS-Dをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管されることをおすすめいたします。

AMS-D取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

目次

安全上の留意項目 ……3
お手入れについて ……5
AMS-Dステレオシステムの構成について ……6
スピーカーシステムの置き方について ……8
リセットスイッチ ……9
スピーカーシステムの保護回路について ……9
メモリーバックアップ ……9
各部の名称および機能(前面)……10
各部の名称および機能(背面)……12
リモコンの使用方法 ……13
各部の名称および機能(リモコン) ……14
接続について……16
CD(コンパクトディスク)の取り扱いについて ……18
CDを聴くには ……20
好きな曲から聴く ……21
繰り返し(リピート)再生 ……21
CDのプログラム再生 ……22
順不同(ランダム)再生……24
ラジオを聴くには ……25
放送局のプリセット(メモリー) ……26
時刻合わせ……27
スリープ機能 ……27
タイマーの使い方……28
故障かな?と思ったら ……30
故障の場合のお問い合せ先……31
仕様 ……裏表紙
保証 ……裏表紙

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

⚠ 警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠警告

通風孔のある機器のみ
●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ
●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

⚠注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ
●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ と － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

⚠警告		●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
		●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
		●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
		●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

⚠注意		●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
		●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
		●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
		●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。 他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

音のエチケット

●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

お手入れについて

キャビネットの汚れを落とす場合

●汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。
から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

●汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

●アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。
また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

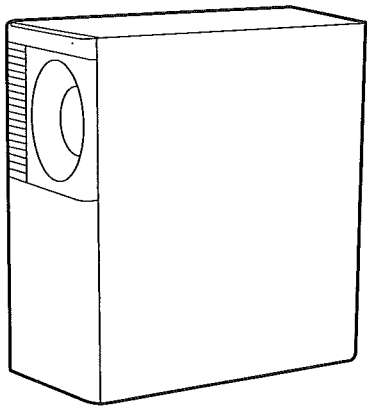
●グリルの背後にはドライバーがあるため、適度に手入れをしないとスピーカーが破損することがあります。必要に応じてゴミを吸いとってください。

AMS-Dステレオシステムの構成について

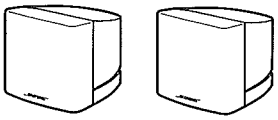
付属品を確認してください

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。また、箱や梱包材は、後日の修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

スピーカーシステム（AM-3Ⅳ）

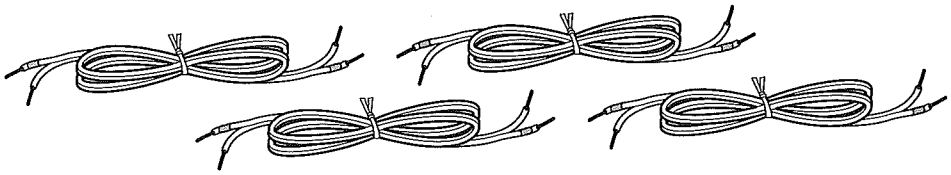


アクースティマス×1台



サテライトスピーカー×2本

アクースティマス用
ゴム足×4個



スピーカーケーブル（6m）×4本

⚠ 注意

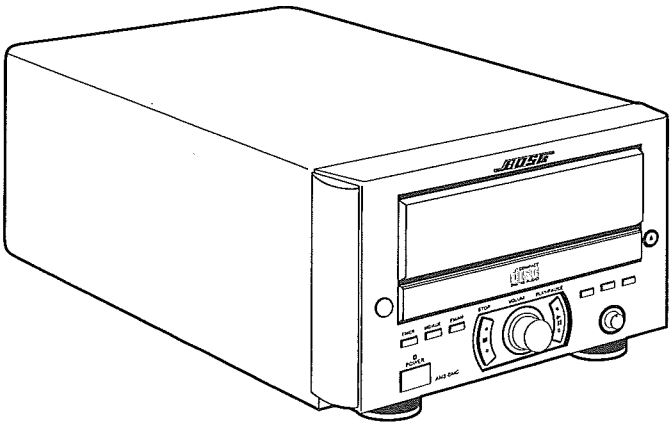
- ●アクースティマスの開口部（低音エネルギーの出てくる穴）は絶対ふさがないようにしてください。開口部を壁などに向ける場合は、少なくとも5cm以上離してください。
- ●アクースティマス内部のスピーカーは、防磁処理が施されておりませんので、テレビやモニターなどに近づけないでください。近づけると画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分（約60cm以上）離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。
- ●サテライトスピーカーは、キャンセリング・マグネット方式とシールドカンを併用した低磁束漏洩型になっていますのでテレビやモニターなどに近づけても、画面に色ムラなど影響が生じにくくなっていますが、まれに画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

⚠ 警告

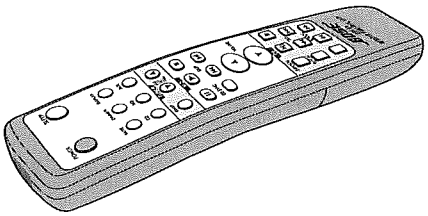
- ●アクースティマスの重量は6.5kgあります。持ち上げる際、ケガなどしないように気をつけてください。
- ●製品を包んでいるビニール袋は、お子様の手の届かないところに保存するか処分してください。間違えてかぶると窒息する危険があります。

AMS-Dステレオシステムの構成について（続き）

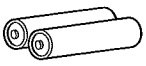
ミュージックセンター（AMS-DMC）



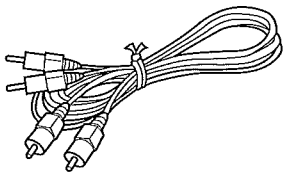
本体（AMS-DMC）1台



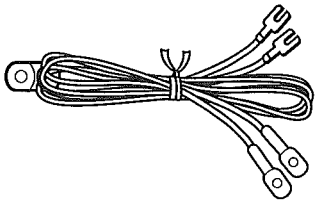
リモコン（BRC-6A）1台



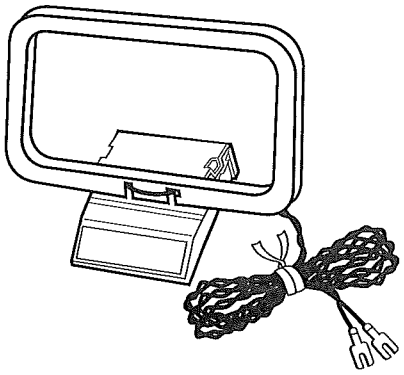
リモコン用乾電池（単4型）2本
（チェック用）



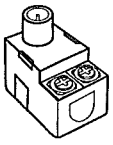
オーディオピンケーブル×1本



FM室内アンテナ　1本



AM用ループアンテナ　1個



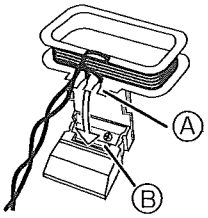
FM室内アンテナ用
アダプター　1本

⚠ 注意

本機AMS-DMCの放熱器は本体底面にあります。
本機を設置する場合は燃えやすいものや熱に弱いものの上へは設置しないでください。熱により火災の原因となる事があります。

AM室内アンテナ

付属のAM用ループアンテナを図のように組み立ててAMアンテナ端子に接続し、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。

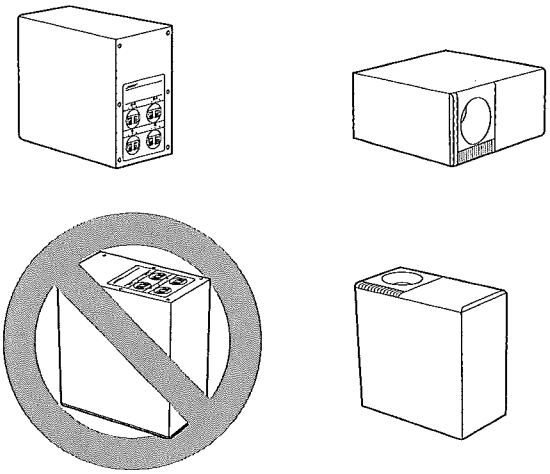


Ⓐの部分をⒷに差し込んでください。

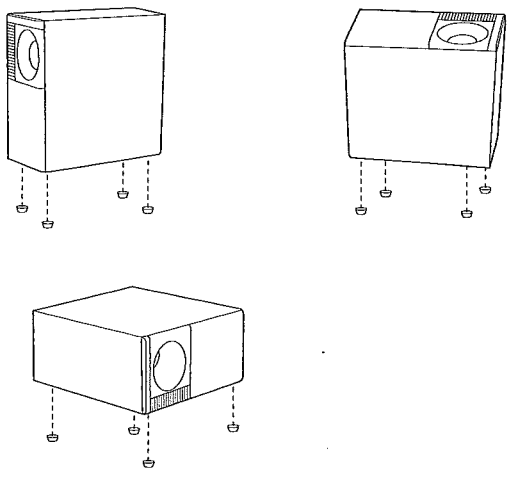
スピーカーシステムの置き方について

1 アクースティマスの置き方について

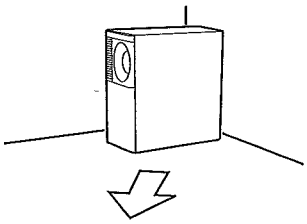
アクースティマスは図のように縦にしても横にしてもかまいません。また、アクースティマスはお部屋の中であれば、テーブルやベッドの下、ソファーの後ろ、あるいはカーテンの陰など見えないところに置くこともできます。アクースティマスは、原則として同一音場内であればどこに設置しても音の方向性を感じさせない設計になっています。ただし、部屋の構造上の問題で多少方向性が感じられる場合には、開口部の方向やアクースティマスの位置を変えて、最良のセッティングポイントを選んでください。



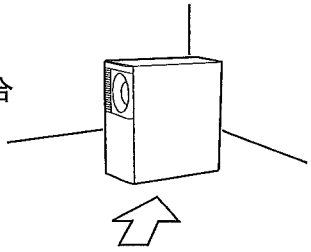
アクースティマスを床に設置するときは、共振防止のため、付属のアクースティマス用ゴム足を貼り付けてお使いになることをおすすめいたします。



◆低音が出すぎる場合
壁やコーナーから
離していきます

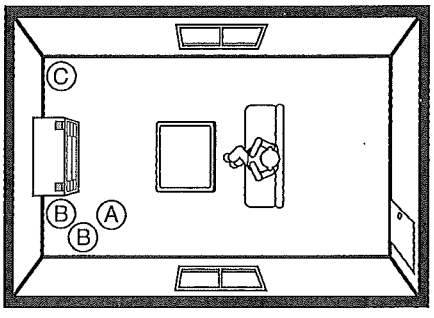


◆低音の量感を出したい場合
壁やコーナーに
近づけていきます



※アクースティマスは設置場所によって低音のレベルを調整することができます。一般的に、部屋の壁やコーナーに近づけて置いた場合に一番効率良く低音が放出され、部屋の中心に近づけるにしたがって低音を抑えることができます。

一般に図のようにⒶよりはⒷ、ⒷよりはⒸの位置に設置したほうが、低音が豊かに感じられます。このとき、低音のエネルギーは開口部から放出されますので、開口部を塞がないよう、壁などから少なくとも5cm以上離してください。

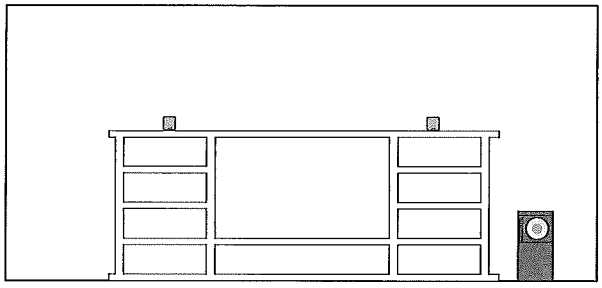


Ⓐ：壁などに接していない場所
Ⓑ：壁の脇
Ⓒ：コーナー

スピーカーシステムの置き方について（続き）

2.サテライトスピーカーの設置場所について

サテライトスピーカーの間隔は1～4.5mの範囲でご使用ください。一般的な広さの部屋では1.8～3.6m離すと最適なステレオ効果が得られます。また、サテライトスピーカーは低磁束漏洩型なのでテレビやモニターの近くで使用することも可能です。



リセットスイッチ

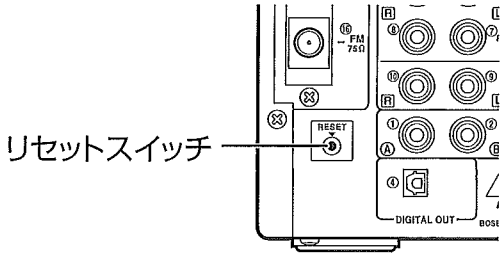
以下のような場合、本機は正しく動作しないことがあります。

●落雷による停電でシステムに異常が発生したとき。

●電源が安定しない、または電気的ノイズがあるとき。

この様な場合は、リアパネルのリセットスイッチをボールペン等の先端で1、2度軽く押してください。

リセットスイッチを押すと、全てのメモリー内容は消去されます。この場合は、設定しなおしてください。



スピーカーシステムの保護回路について

■自動復帰型保護回路について

AM-3Ⅳには、安全限界を超えるような過大入力あるいは何らかの異常入力が連続して加えられますと、自動的に出力レベルを下げる保護回路が内蔵されています。この回路はまた、サテライトスピーカーへの送り出し信号に対しても働くよう設計されており、スピーカーシステムを保護します。

●急に再生音が小さくなったら

音楽再生中、急に音が小さくなっても故障ではありません。保護回路が働くことでスピーカーへの負担を低減しています。異常原因が取り除かれた後、自動的に復帰します。復帰に要する時間は、その時の使用条件により異なります。

〈注意〉

保護回路が働いた場合、その原因をただちに調べ、異常を取り除いてください。アンプの出力を上げ過ぎている場合にはボリュームを絞り、原因がよくわからないときにはアンプの電源を切って、お買い上げの販売店、または修理担当部門までご連絡ください。そのままの状態で使用を続けることは絶対におやめください。

〈原因〉

保護回路が働く原因としては次のようなことが考えられます。

●スピーカーシステムへの過大入力（音量の上げ過ぎ）

●アンプの出力が歪んでいる（入力信号の音割れ）

(a)アンプが限界を超えてドライブされている（アンプへの過大入力）

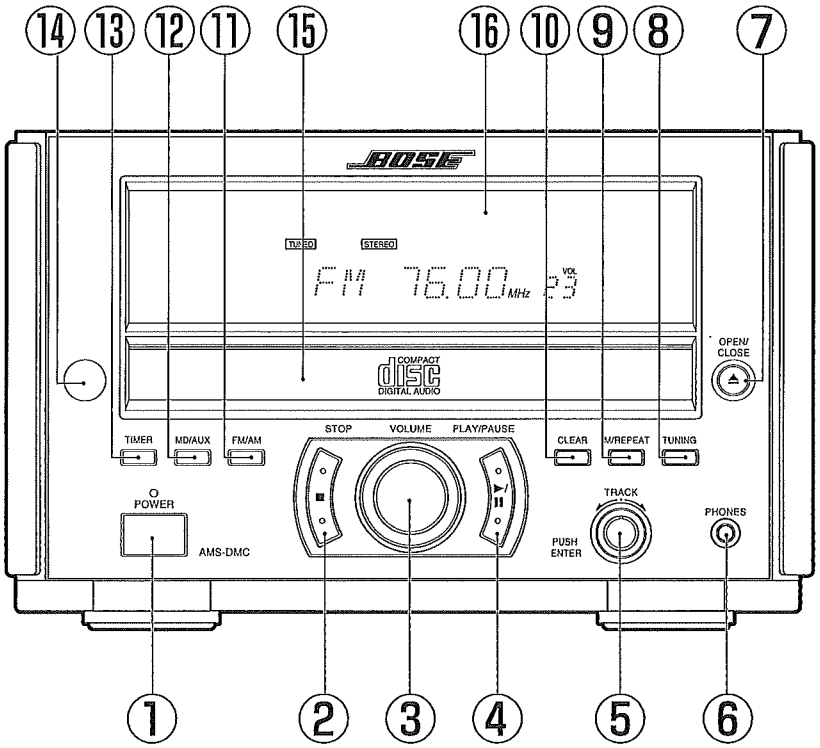
(b)アンプの故障

●アンプDC（直流電流）洩れ（アンプの故障）

メモリーバックアップ

4週間以上電源プラグをコンセントから外しておいた場合、メモリーされていた内容は全て消去されますので、もう一度設定してください。またメモリーバックアップ機能が働くようにするには、3日間以上コンセントに接続して内部のバックアップ用電源に充電してください。

各部の名称および機能（前面）



① POWERキー

電源のオフ（スタンバイ）/オンを切り替えます。スタンバイ（オフ）時にインジケーターが点灯し、オンになると消灯します。

② STOP（■）キー

CDを演奏中にこのキーを押すと停止します。ラジオを聴いているときに、このキーを押すと強制モノラル/マニュアル選局に切り替わります。さらに押すとプリセット（メモリー）選局に切り替わります。

③ VOLUMEつまみ

音量調節するつまみです。時計方向に回すと音量が上がり、反対方向に回すと音量が下がります。MIN（00）～MAX（63）

④ PLAY/PAUSE（▶/❚❚）キー

CDが本体にセットされているとき、このキーを押すとCDの演奏が始まります。演奏中にこのキーを押すと一時停止します。もう一度押すと再び演奏を始めます。電源がオフのとき、このキーを押すと電源が入り、CDの演奏が始まります。

⑤ TRACKつまみ

・ラジオ自動選局時

つまみを回すと自動的に放送局を探します。

・ラジオプリセット選局時

つまみを回すとあらかじめメモリーしておいた放送局を順に選んでいきます。

・ラジオ強制モノラル/マニュアル選局時

つまみを回してマニュアル（手動）で放送局が探せます。

・CD演奏中

つまみを回して曲が選べます。演奏したい曲の頭から演奏を始めます。また、このつまみを押すと一時停止になり、もう一度押すと再び演奏を始めます。

・CD停止中

つまみを回して曲を選びます。つまみを押すと選んだ曲の頭から演奏を始めます。CD停止中にこのつまみを3秒以上押すとプログラム再生のセッティングモードになります。

各部の名称および機能（前面）（続き）

・CD一時停止中
つまみを回して曲を選びます。つまみを押すと選んだ曲の頭から演奏を始めます。

・時刻合わせ
現在の時刻を合わせるときやタイマーの時刻設定時に使います。

⑥ ヘッドホン端子
ヘッドホンプラグを差し込むとスピーカーからの音を消し、ヘッドホンから音が出ます。

⑦ OPEN/CLOSE(⏏)キー
このキーを押すとCDトレーが出てきます。再び押すとトレーが閉まります(トレーを出したまま約10秒経つと、自動的に閉まります)。

⑧ TUNINGキー
・ラジオのとき
このキーを2秒以上押すとFM/AM合計30局まで放送局を自動でプリセットできます(26ページ参照)。

・CD演奏中
このキーを押すと下のように時間の表示が切り替わります。
演奏曲の経過時間 ⟶ 演奏曲の残り時間
↑ CD全体の残り時間 ←

⑨ M/REPEATキー
・ラジオのとき
放送局をプリセット(メモリー)するときに押します。

・CDのとき
CDを繰り返し(リピート)再生するときに押します。

⑩ CLEARキー
時計・タイマーセッティング中にこのキーを押すとセッティングモードがキャンセルされます。

⑪ FM/AMキー
ラジオに切り替える時にこのキーを押します。ラジオのときにこのキーを押すとFMとAMとが交互に切り替わります。

⑫ MD/AUXキー
MDやAUXへ接続されている外部の機器に切り替えるときにこのキーを押します。

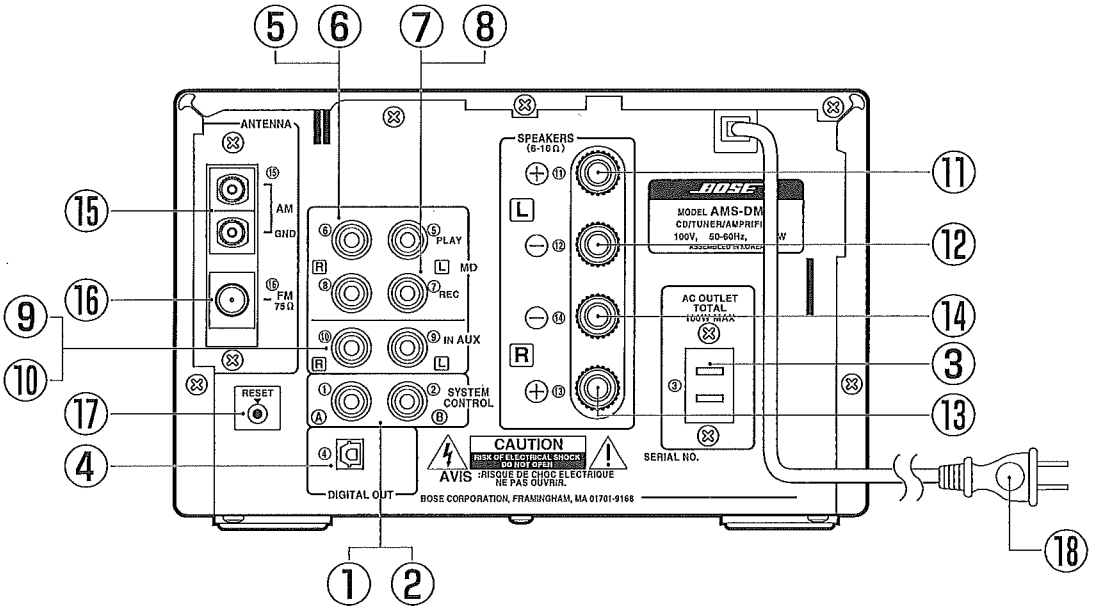
⑬ TIMERキー
時刻を合わせたり、タイマーをセットするときに押します。

⑭ 受光部
リモコンから出された赤外線を受信するところです。

⑮ CD(コンパクトディスク)トレー
CDをこのトレーにセットします。

⑯ 表示部
時間やCDの収録時間などの情報を表示します。

各部の名称および機能（背面）



① ② SYSTEM CONTROL

ボーズ社MDA-10背面のAまたはB端子とシステムコントロールケーブルで接続すると、便利なシステム機能（タイマー再生、CDシンクロ録音）が使えます。

③ AC OUTLET

本体の電源ON/OFFに連動しないコンセントです。最大100Wまでの外部の機器が接続できます。

④ DIGITAL OUT

CDの信号をデジタル録音するための出力端子です。MDレコーダーやDATなどの光デジタル入力端子と光デジタルケーブルで接続します。

⑤ ⑥ MD PLAY

MDレコーダーの音声出力端子とオーディオピンケーブルで接続します。

⑦ ⑧ MD REC

MDレコーダーの音声入力端子とオーディオピンケーブルで接続します。

⑨ ⑩ AUX入力端子

外部の機器の音声出力端子とオーディオピンケーブルで接続します。

⑪ ⑫ ⑬ ⑭ スピーカー出力端子

スピーカーケーブルを接続する端子です。

⑮ AMアンテナ端子

AMアンテナを接続する端子です。付属のAMループアンテナを接続してください。

⑯ FMアンテナ端子

FMアンテナを接続する端子です。付属のFM室内アンテナをアダプターを介して接続してください。または、外部の75Ωのアンテナを接続します。

⑰ リセットスイッチ

システムに異常が発生したときにボールペンの先などで1、2度軽く押します。ただし、全てのメモリー内容が消去されますので再設定が必要になります（9ページ参照）。

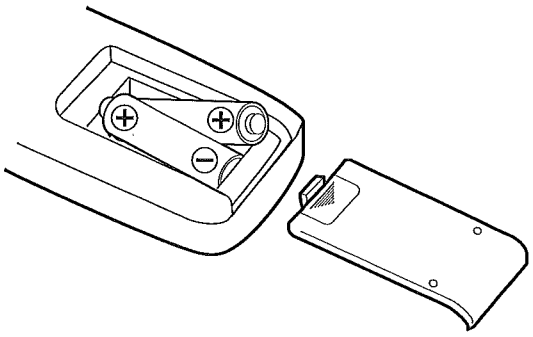
⑱ 電源プラグ

接続がすべて終了したら、家庭用電源コンセントに接続してください。

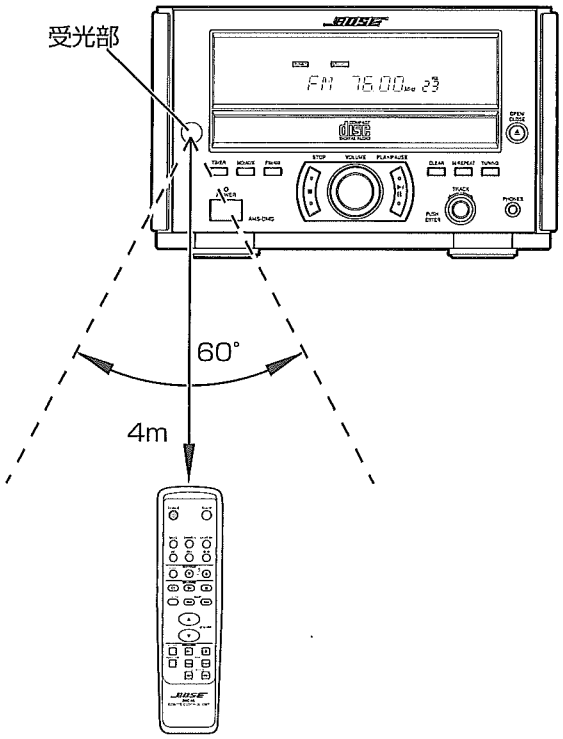
リモコンの使用方法

電池の入れ方

ケースの⊕と⊖表示に合わせて乾電池（単4型）2本を入れてください。



リモコンの動作範囲



電池交換の時期は…

リモコンの電池が消耗するとリモコンの動作範囲が狭まってきて、効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたら、リモコンの電池を2本とも新しい電池に交換してください。

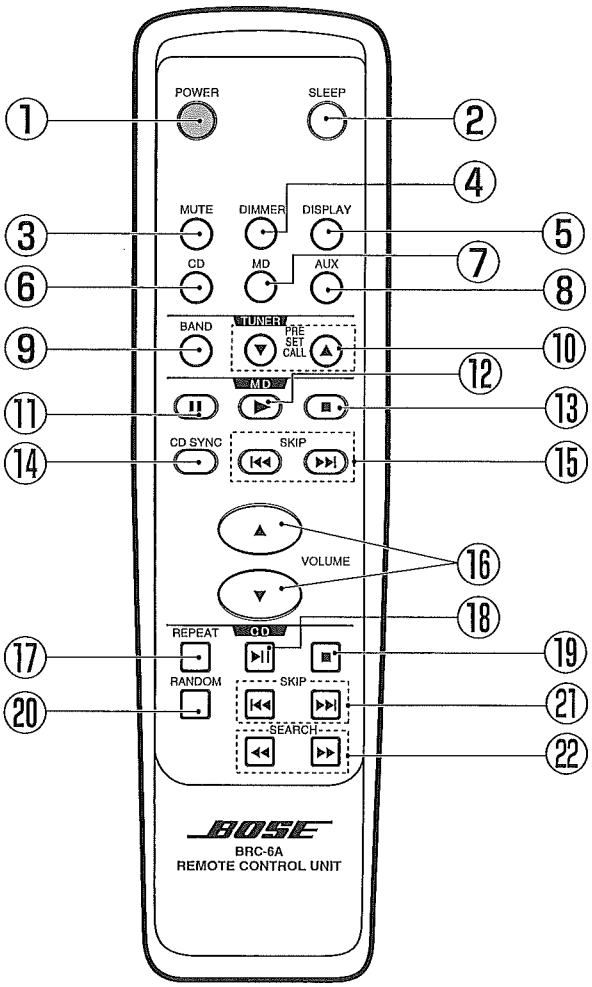
⚠ 使用上の注意

- ●本機の受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- ●本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- ●リモコンと本機受光部の間に障害があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。

⚠ 電池についてのご注意

- ●乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- ●新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ●乾電池は絶対に充電しないでください。
- ●長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- ●液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

各部の名称および機能（リモコン）



① POWER（パワー）キー
電源のオフ（スタンバイ）/オンを切り替えます。

② SLEEP（スリープ）キー
スリープタイマーを使用するときにこのキーを押します（27ページ参照）。

③ MUTE（ミュート）キー
このキーを押すと表示部の“VOL”の文字が点滅し一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。なお、ミュート中にボリュームを変化させると、ミュートが解除されます。

④ DIMMER（ディマー）キー
表示部の明るさを落とすときに押します。もう一度押すともとの明るさに戻ります。

⑤ DISPLAYキー
CD再生時の表示部の時間表示を切り替えるときに押します。

⑥ CDキー
このキーを押してCDに切り替えます。

⑦ MDキー
このキーを押してMDに切り替えます。

⑧ AUXキー
このキーを押して外部の機器に切り替えます。

⑨ BAND（バンド）キー（TUNER用）
このキーを押してラジオに切り替えます。ラジオを聴いているときにこのキーを押すとFM/AMが切り替わります。

⑩ PRESET CALL（プリセットコール）▼/▲キー（TUNER用）
プリセットしてある放送局を呼び出します。

⑪ ❚❚（ポーズ）キー（MD用）
MDの再生中にこのキーを押すとMDの演奏が一時停止します。もう一度押すと再び演奏を始めます。

⑫ ▶（プレイ）キー（MD用）
このキーを押すとMDの演奏が始まります。

⑬ ■（ストップ）キー（MD用）
MDを停止するときに押します。

⑭ CD SYNC（シンクロ）キー（MD用）
CDをMDにシンクロ録音するときにこのキーを押します。

⑮ SKIP（スキップ）⏮/⏭キー（MD用）
MDの曲を選ぶときに押します。

各部の名称および機能（リモコン）（続き）

⑯ VOLUME（ボリューム） ▲ / ▼ キー
音量を調節するときに押します。

⑰ REPEATキー（リピート）（CD用）
このキーを押すとCDの曲を繰り返し演奏します。

⑱ ▶II（プレイ/ポーズ）キー（CD用）
このキーを押すとCDの演奏が始まります。演奏中にこのキーを押すと一時停止します。もう一度押すと再び演奏を始めます。電源がオフのとき、このキーを押すと電源が入り、CDの再生が始まります。

⑲ ■（ストップ）キー（CD用）
CDを停止するときに押します。

⑳ RANDOM（ランダム）キー（CD用）
CDの曲を順不同再生するときに押します。

㉑ SKIP（スキップ）I◀◀ / ▶▶I キー（CD用）
CDの曲を選ぶときに押します。

㉒ SEARCH（サーチ）◀◀ / ▶▶ キー（CD用）
このキーを押し続けると、CDの曲を早送り、早戻しを行います。

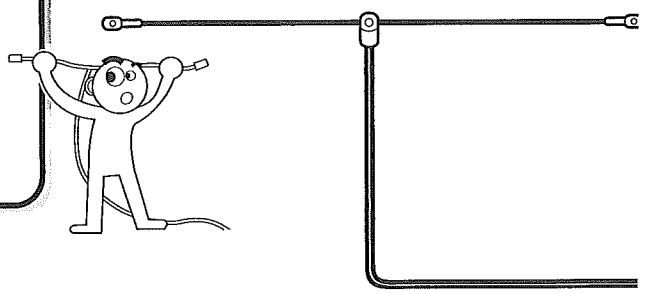
接続について

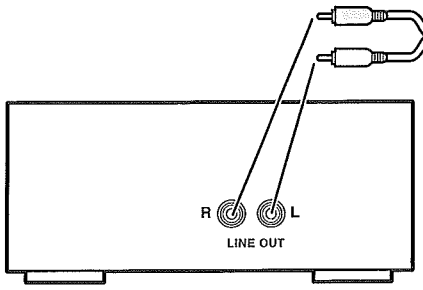
⚠注 意

- ●全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- ●接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ●交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- ●電源の抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。
- ●サテライトスピーカーを直接アンプへ接続しないでください。スピーカーを保護する回路は、アクースティマス内にあるのでアンプとサテライトスピーカーを直接接続すると、サテライト用の保護回路がはたらかず、スピーカーを破損させる危険があります。
- ●各端子に接続したケーブルの芯の部分やアンプの金属部分に接触しないように気をつけてください。接触しているとアンプのショート事故が起こりアンプを破損させることがあります。

FM室内アンテナ

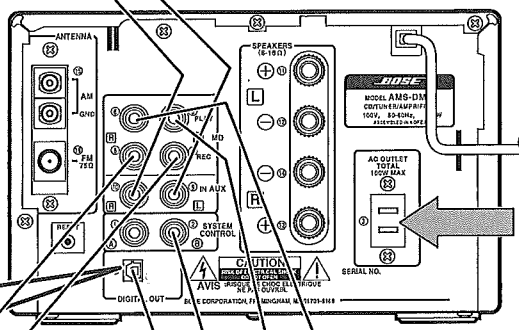
付属のFM室内アンテナをアダプターを介してFMアンテナ端子に接続し、先端をのばし受信状態が最も良くなるようにアンテナの方向を決めて天井や壁に画鋲などで固定してください。
FM電波の弱い地域では3素子以上の屋外アンテナを使用し、75Ω同軸ケーブルで直接FMアンテナ端子に接続してください。





MD、ビデオデッキなど

壁のコンセントへ



AMS-DMC

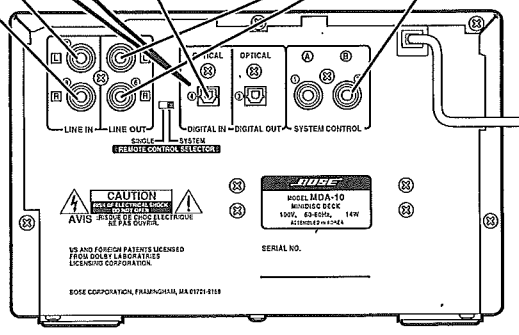
保護キャップを外してください。
また、外した保護キャップは、なくさないように大切に保管してください。
光デジタルケーブルは奥までしっかり差し込んでください。

オーディオピンケーブル

光デジタルケーブル

オーディオピンケーブル

システムコントロールケーブル

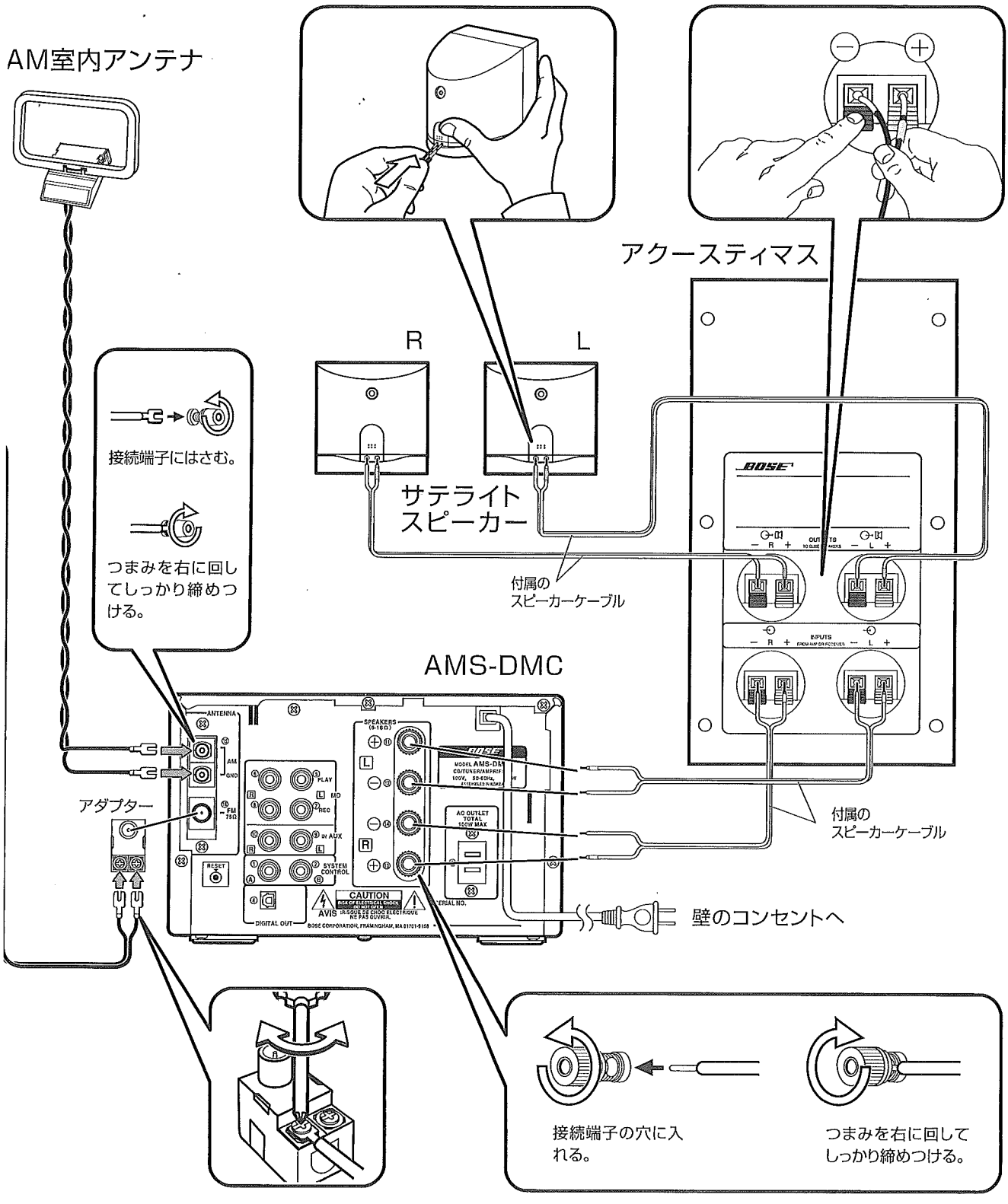


MDA-10

※オーディオピンケーブル（2本）、光デジタルケーブル（1本）、システムコントロールケーブル（1本）は、MDA-10に付属しています。

スピーカーケーブル

スピーカーケーブルには⊕(プラス)と⊖(マイナス)を見分けるための印がついています。文字が書かれていて、先端に赤いスリーブがついているほうを⊕として使用します。
アクースティマスの入力端子、サテライトスピーカーの入力端子とも赤いほうが⊕になっています。



CD（コンパクトディスク）の取り扱いについて

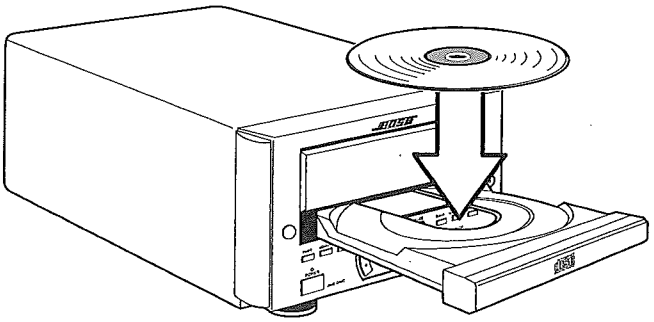
結露現象について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるCDからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

ディスクの取り扱いについて

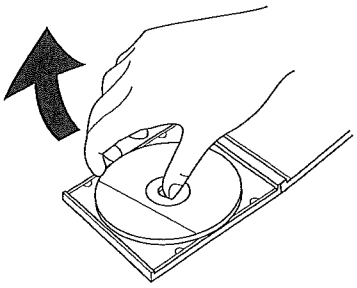
ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください（CDの演奏は片面だけです）。

※CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

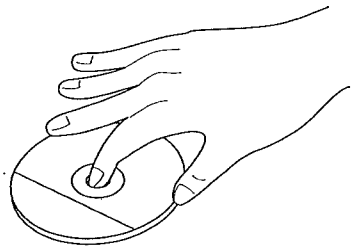


七色に輝く面が表面です。レーベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、コンパクトディスクプレーヤーは、レーザー光線のピックアップでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがって従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

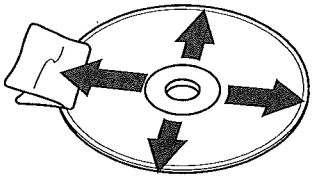


ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。



ディスクの表面はいつもきれいに

CDの表面には最大約60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずCD専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。



※コンパクトディスクは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、コンパクトディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

CD保管上の注意

CDはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

- ●直射日光の当たる場所。
- ●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ●車の中などの高温になる場所。
- ●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ●極端に寒い場所。
- ●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ●屋外や直接水のかかるところ。

CD（コンパクトディスク）の取り扱いについて（続き）

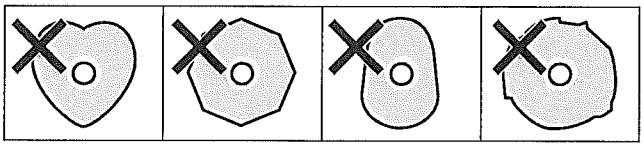
●レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。

●再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。

●ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのままCDプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

●市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。

●ハート型や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

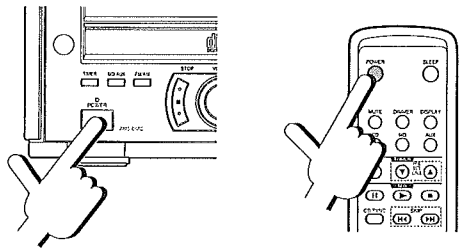


⚠注意

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがや故障の原因となることがあります。

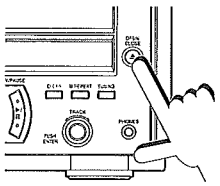
CDを聴くには

1.POWERキーを押して電源を入れます。

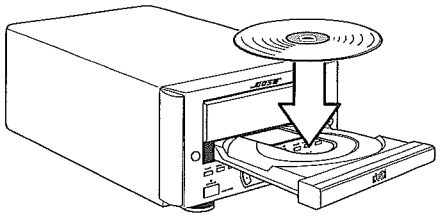


PLAY/PAUSE(▶/II)キーを押しても電源を入れることができます。

2.OPEN/CLOSE（⏏）キーを押してCDトレーを出します。



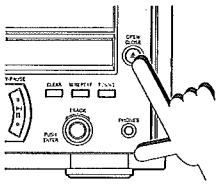
3.CDを静かに置きます。



⚠注意

CDトレーを出したままにしておくと約10秒で自動的に閉まります。CDがきちんとトレーにセットされていることを確認してください。

4.OPEN/CLOSE（⏏）キーを押してCDトレーを閉じます。

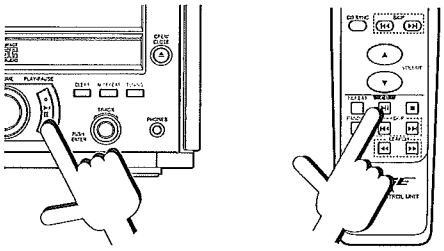


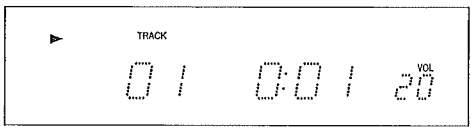
⚠注意

トレーを閉じる時、指をはさまれない様に注意してください。

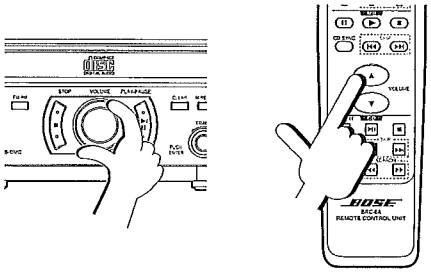
5.PLAY/PAUSE（▶/II）キーを押すと、再生が始まります。

※TRACKつまみを押しても再生が始まります。



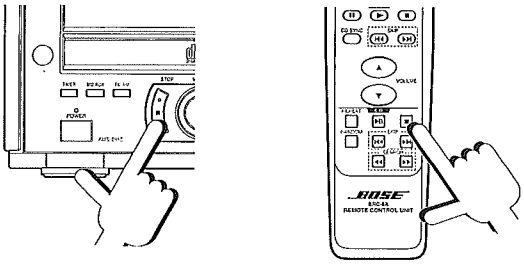


6.VOLUMEつまみを回して音量を調節します。



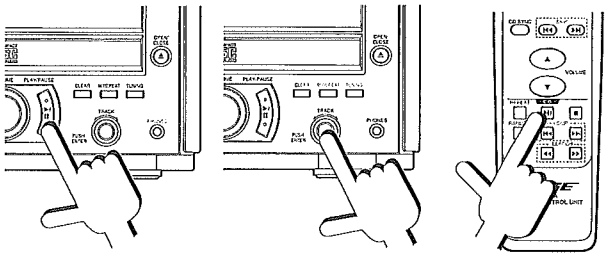
再生をやめるには

STOP(■)キーを押すと、再生が停止します。



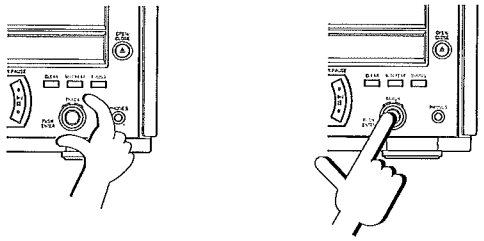
再生を一時停止するには

再生中にPLAY/PAUSE（▶/II）キーまたはTRACKつまみを押すと、再生が一時停止します。もう一度PLAY/PAUSE（▶/II）キーまたはTRACKつまみを押すと、再び再生が始まります。

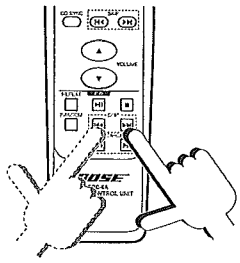


好きな曲から聴く

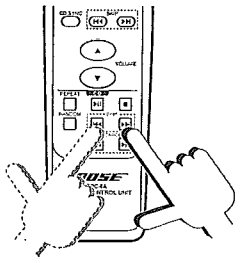
TRACKつまみを回して好きな曲を選びます。好きな曲を選んだらTRACKつまみを押すと再生を始めます。再生中にTRACKつまみを回して別の曲を選ぶこともできます。この場合そのまま再生を始めます。



リモコンの場合はSKIP(⏮ / ⏭)キー(CD用)を使って、好きな曲を選びます。停止中に選んだ場合は、(⏯)キー(CD用)を押して再生を始めます。再生中に選んだ場合はそのまま再生を始めます。



●リモコンのSKIP(⏭)キー(CD用)を一回押すと次の曲の頭に進みます。SKIP(⏮)キー(CD用)を一回押すと再生中の曲の頭に戻ります。それより前の曲を再生したいときは、SKIP(⏮)キー(CD用)を続けて押してください。

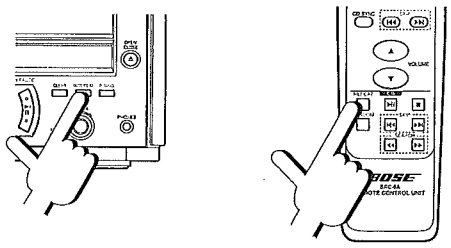


※再生中は最後の曲から最初の曲へスキップして送ったり、最初の曲から最後の曲へスキップして戻すことはできません。

■曲の中の聴きたい箇所をさがすにはリモコンのSERCH (◀◀ / ▶▶)キー(CD用)を押し続け、早送り、早戻しを行って聴きたい箇所を探すことができます。

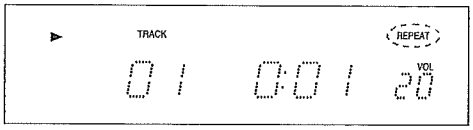
繰り返し(リピート)再生

本体のM/REPEATキーまたはリモコンのREPEATキーを押すたびに、リピートモードが変わります。



■1曲リピート"REPEAT"

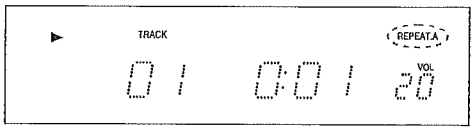
再生中に本体のM/REPEATキーまたはリモコンのREPEATキーを押して"REPEAT"を選ぶと、再生中の曲が繰り返し再生されます。1曲リピート再生中に他の曲を選ぶと、選んだ曲の繰り返し再生に変わります。



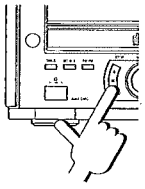
●停止中に1曲リピートに設定してから、曲を選んで再生すると、その曲が繰り返し再生されます。

■全曲リピート"REPEAT.A"

本体のM/REPEATキーまたはリモコンのREPEATキーを押して"REPEAT.A"を選ぶと、CD全曲を繰り返し再生します。



■リピートを解除するには、本体のM/REPEATキーまたはリモコンのREPEATキーを"REPEAT"、"REPEAT.A"の表示が消えるまで押してください。



※本体またはリモコンのSTOP(■)キーを押しても解除できます。

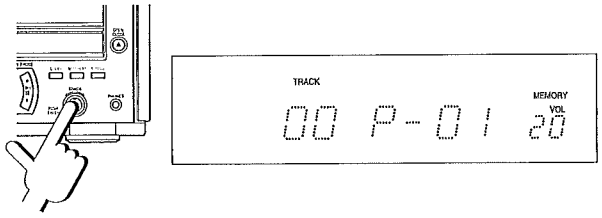
CDのプログラム再生

合計32曲までプログラムして再生できます。CD再生中はプログラムの設定はできません。

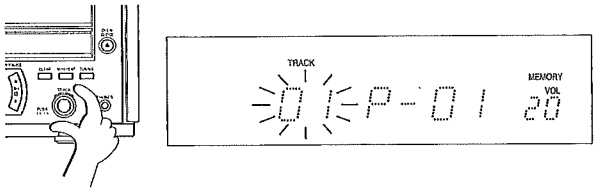
プログラムの方法

プログラムをするときはCDを停止してください。

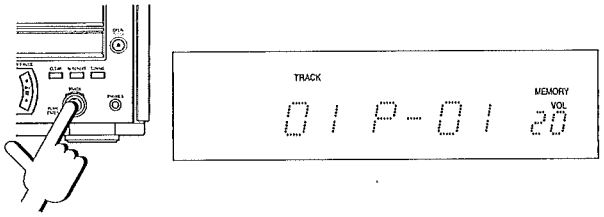
1.TRACKつまみを"MEMORY"が点灯するまで押し続けます(約3秒)。



2.TRACKつまみを回して好きな曲を選びます。

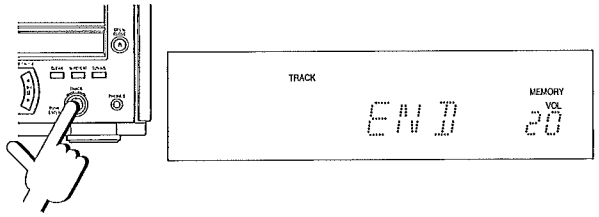


3.TRACKつまみを押してプログラムします。

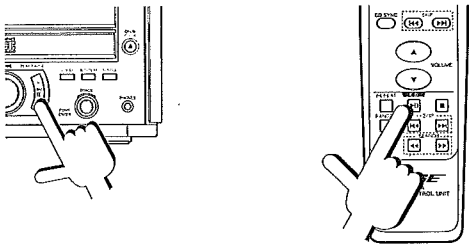


※複数の曲目をプログラムするときは、2～3の操作を繰り返してください。

4.プログラムを終了するときは、TRACKつまみをもう1回押します。表示部に"END"が表示されます。



5.PLAY/PAUSE(▶/⏸)キーまたはリモコンの▶/⏸ キーを押すとプログラム再生が始まります。



プログラム再生を止めるとき

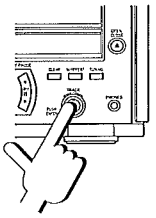
再生中にSTOP(■)キーを押してCDを停止させます。プログラムは全て削除されて、プログラム再生が解除されます。

プログラム再生の前にできること

PLAY/PAUSE(▶/⏸)キーを押してプログラム再生をはじめる前に操作してください。

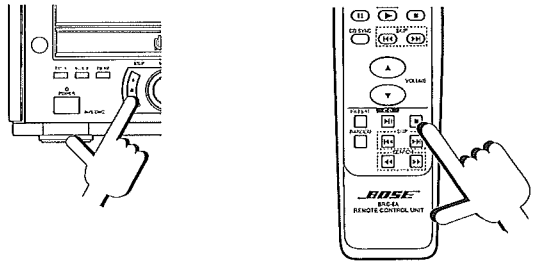
■プログラム内容を確認する

「プログラムの方法」の4の操作終了後("END"を表示させた後)にTRACKつまみを押すたびに1番から順に"END"までプログラムした曲と順番が表示されます。



■プログラムした曲をキャンセルする

STOP(■)キーを押します。このキーを押すたびに1曲ずつ削除されます。全ての曲を削除するとプログラム再生は解除になります。



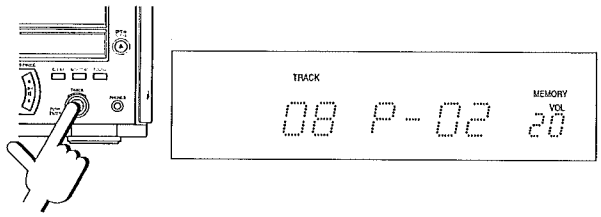
CDのプログラム再生（続き）

■プログラムの途中に追加する場合

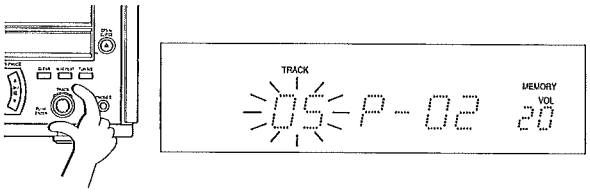
「プログラムの方法」の4の操作終了後（"END"を表示させた後）の状態で行います。

例：プログラムの1番目と2番目の間にCDの5曲目を追加するとき

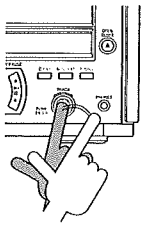
1.TRACKつまみを押して"Pro-02"を出します。



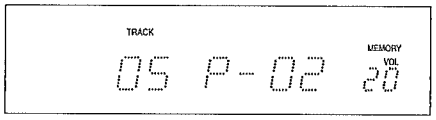
2.TRACKつまみを回して"05"を表示します。



3.TRACKつまみを**2回**押します。

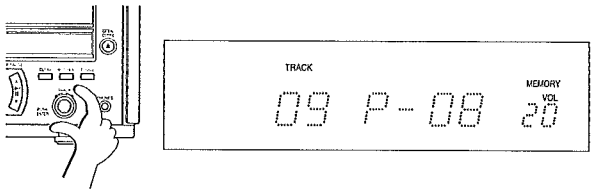


4.2番目に5曲目がプログラムされました。

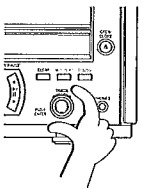


■プログラムの最後に曲を追加する場合

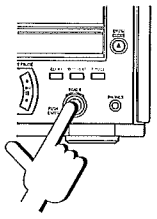
1.「プログラムの方法」の4の操作終了後（"END"を表示させた後）にTRACKつまみを回すとプログラム番号が一つ追加されます。



2.プログラムに追加したいCDの曲をTRACKつまみを回して選びます。

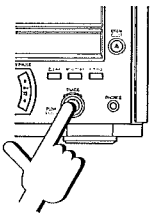


3.TRACKつまみを**1回**押します。

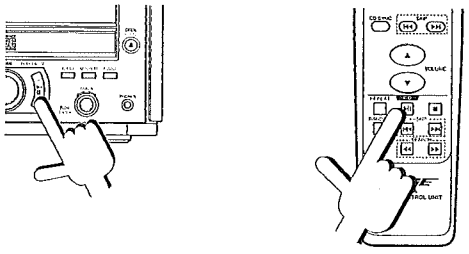


※さらに続けて追加したい場合は**1**～**3**の操作を繰り返してください。

4.内容をチェックしたい場合はTRACKつまみをもう1回押して"END"を表示させます。



5.プログラムを終了する場合は本体のPLAY/PAUSE（▶/❚❚）キーまたはリモコンの ▶❚❚ キーを押すとプログラム作業が終了して再生を始めます。



プログラム再生中に…

■リモコンのRANDOMキーを押すと

プログラムした曲の中で順不同（ランダム）再生することができます（24ページ参照）。

■本体のM/REPEATキーまたはリモコンのREPEATキーを押すと

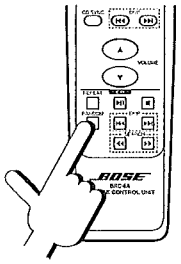
その曲またはプログラムした曲の全曲を繰り返し再生することができます。

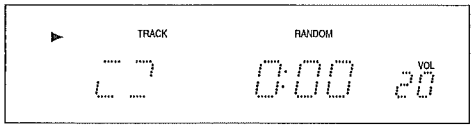
順不同（ランダム）再生

CDに入っている曲またはプログラムした曲を、順不同（ランダム）に1回ずつ再生して、全曲再生すると停止します。

ランダム再生

●CD停止中または再生中に、リモコンのRANDOMキーを押して表示部に“RANDOM”を点灯させます。停止中に点灯させた場合は自動的に曲を選んで再生を始めます。再生中に点灯させた場合は自動的に選曲して再生を始めます。





ランダム再生の解除のしかた

ランダム再生を解除するには2通りの方法があります。

●電源を切る。

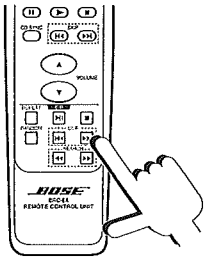
●RANDOMキーを押して表示部の“RANDOM”を消灯させる。

※ランダム再生は次の場合解除にはならず、再びCD再生を始めるときランダム再生のままで演奏をします。

・STOPキーを押してCDを停止させた。
・▲ キーを押してCDを取り出したり交換した。
・音源をCDから、FM/AM、AUXに切り替えた。

ランダム再生時に曲を変える

●ランダム再生中に本体のTRACKつまみを時計方向に回すか、リモコンのSKIP ▶▶| キー（CD用）を押すと次の曲がランダムに選曲されます。

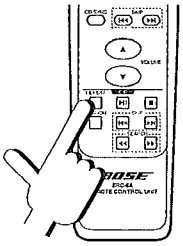


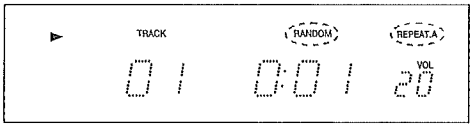
※ただし全曲を選択し終えて、最後の曲になった時にこの操作を行っても選曲されません。

順不同（ランダム）再生時のリピート再生

順不同で再生を続けるランダムリピート再生ができます。

●順不同（ランダム）再生時に本体のM/REPEATキーまたはリモコンのREPEATキーを押すと表示部に“RANDOM”と“REPEAT.A”が点灯しランダムリピート再生になります。



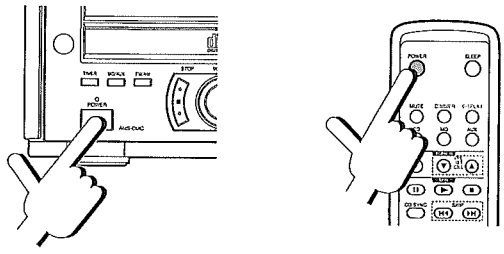


●解除するには本体のM/REPEATキーを押して表示部の“REPEAT.A”を消してください。通常のランダム再生に戻ります。

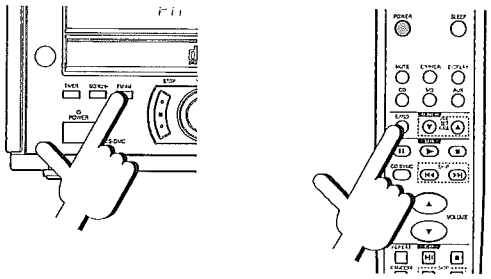
ラジオを聴くには

アンテナが正しく接続されているか確認してください。

1.POWERキーを押して電源を入れます。

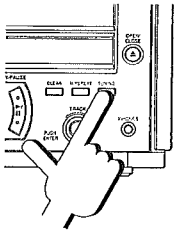


2.FM/AMキーを押してFMかAMを選びます。
リモコンの場合はBANDキーを押します。

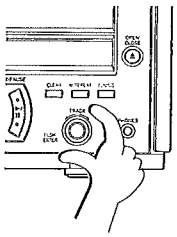


◆自動で選局する◆

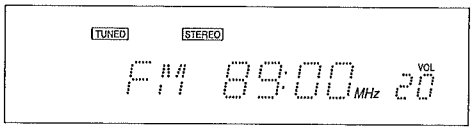
1.TUNINGキーを押して「AUTO」を選びます。



2.TRACKつまみを回します。



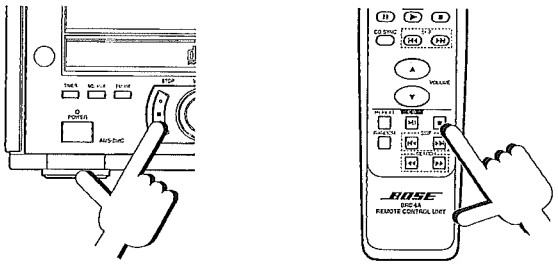
3.自動的に放送局を受信して周波数表示が止まり「TUNED」が点灯します。次の放送局を聴きたいときはもう一度TRACKつまみを回します。

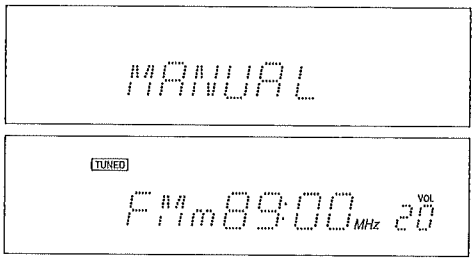


どの放送局も受信できない場合は選局をはじめた周波数まで一回りして自動的に止まります。

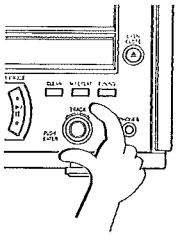
◆手動で選局する◆

自動で受信できない放送局を選ぶときに手動で選局します。
STOPキーを押すと強制モノラル/マニュアル選局に切り替わります。





TRACKつまみを聴きたい放送局が受信できるまで回してください。



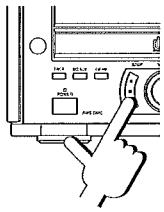
放送局のプリセット(メモリー)

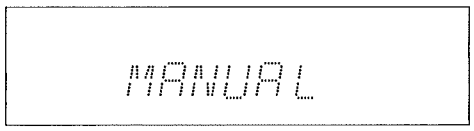
—AM、FM合わせて30局までプリセットできます—

ラジオを聴く状態にします(25ページ参照)。

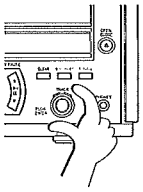
手動でプリセット

1.STOPキーを押して強制モノラル/マニュアル選局に切り替えます。

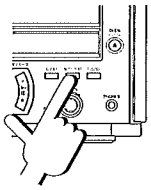




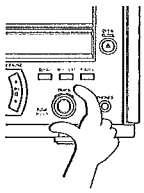
2.TRACKつまみを回してプリセットしたい放送局を受信します。

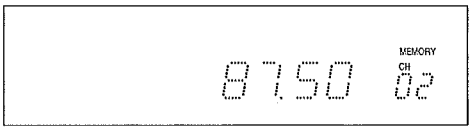


3.M/REPEATキーを押します。表示部に「MEMORY」が点滅します(約10秒)。



4.点滅している間にTRACKつまみを回してプリセットしたいチャンネル(ch)を選び、TRACKつまみを押します。

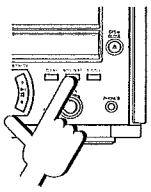




※続けてプリセットする場合は**2**～**4**の操作を繰り返してください。

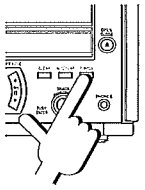
自動でプリセット

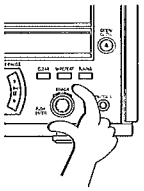
M/REPEATキーを2秒以上押し続けます。受信状態の良い放送局が最大30局まで自動的にプリセットされます。プリセットはFM→AMの順にチャンネル1から設定されます。

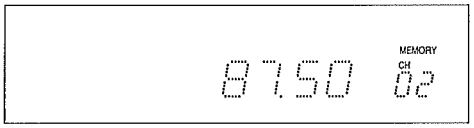


プリセットしたチャンネルを聴く

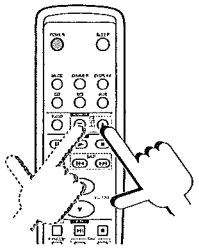
本体のTUNINGキーを"PRESET"になるまで押して、TRACKつまみを回して聴きたいチャンネルを選びます。







リモコンのPRESET CALL(▲／▼)キー(TUNER用)を押して聴きたいチャンネルを選びます。



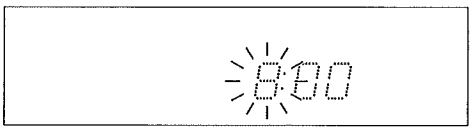
プリセットを消すには

1つずつ消すことはできません。本機をリセットすると初期設定に戻ります(その他のメモリーも初期化されますのでご注意ください)。

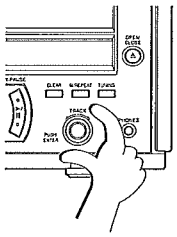
時刻合わせ

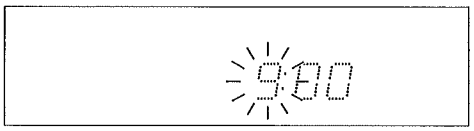
1.TIMERキーを約2秒押します。

「時」の部分が点滅します。

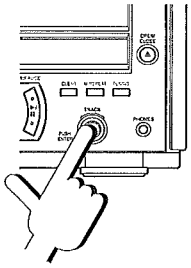


2.TRACKつまみを回して「時」を合わせます。

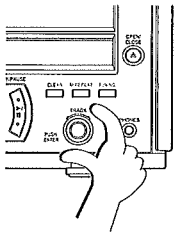


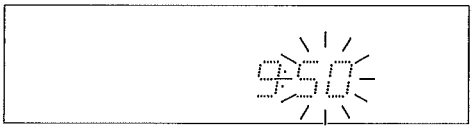


3.TRACKつまみを押します。

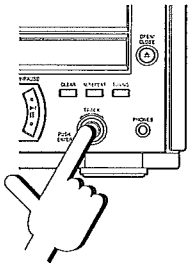


4.TRACKつまみを回して「分」を合わせます。





5.TRACKつまみを押します。

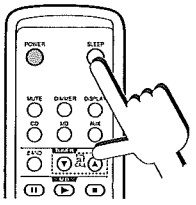


時計がスタートします。時報等に合わせてTRACKつまみを押すと、時刻を正確に設定できます。

スリープ機能

—この操作はリモコンでしかできません—

電源オンの状態でリモコンのSLEEPキーを押すと、表示部に「SLEEP 90」と表示され、90分後に電源が切れてスタンバイ状態になります。繰り返しSLEEPキーを押すと、10分刻みで時間を変更できます。



SLEEP 90、SLEEP 80、……SLEEP 10、(オフ)

スリープ設定にするとディマーモードで表示が暗くなり、設定時間後に電源が切れます。

●スリープタイマーの残り時間を確認したいときは、SLEEPキーを押してください。

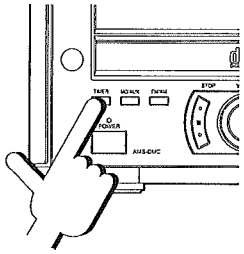
●スリープタイマーモードを解除するにはSLEEPキーを繰り返し押してオフにしてください。

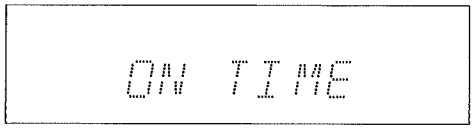
タイマーの使い方

あらかじめ時刻を合わせておいてください(27ページ参照)。

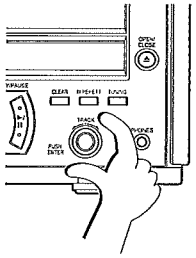
1.TIMERキーを5秒以上押します。

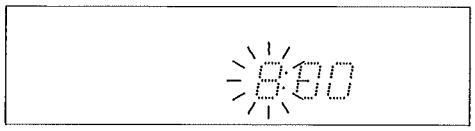
"ON TIME"が表示されます。





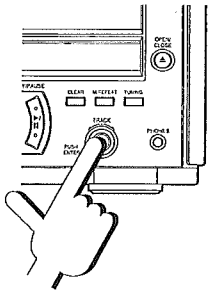
2.TRACKつまみを回して開始時刻(時)を設定します。

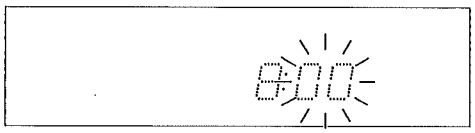




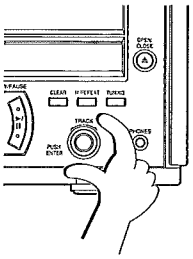
3.TRACKつまみを押します。

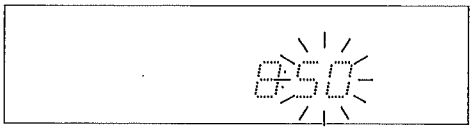
開始時刻(分)が点滅します。





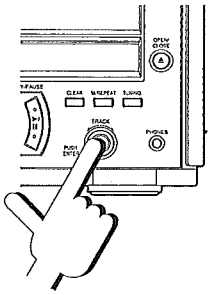
4.TRACKつまみを回して開始時刻(分)を設定します。

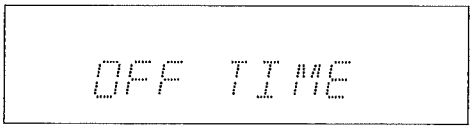




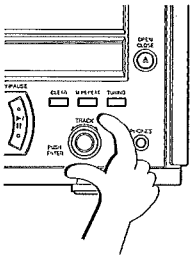
5.TRACKつまみを押します。

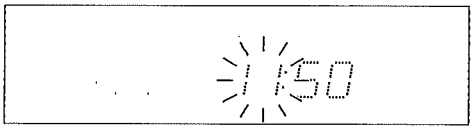
"OFF TIME"が表示されます。



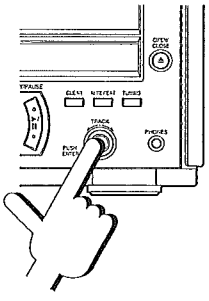


6.TRACKつまみを回して終了時刻(時)を設定します。



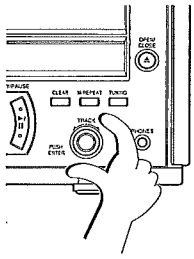


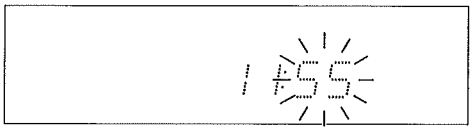
7.TRACKつまみを押します。



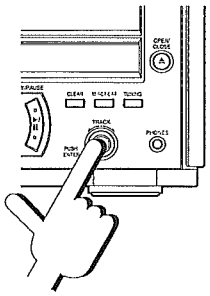
タイマーの使い方（続き）

8.TRACKつまみを回して終了時刻（分）を設定します。





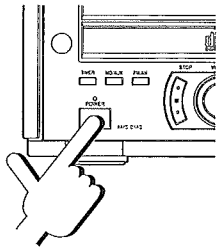
9.TRACKつまみを押します。



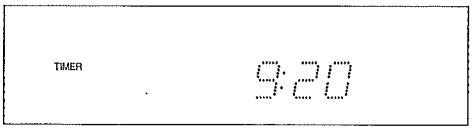
10.TRACKつまみを回して再生したい音源を選びます。"INPUT SELECTOR"が表示されます。

●TUNERを選んだ場合は、現在選択されている放送局が設定されます。

11.スタンバイ/オンキーを押してスタンバイ状態にします。



「TIMER」が点灯し、タイマーモードに入ります。



※設定内容を確認したいときは、TIMERキーを押してください。

※電源を入れてTIMERキーを押すと、タイマーモードをオン/オフできます。

故障かな？と思ったら

問　題	対　応
■全般	
電源が入らない	・電源コードの差し込みが不完全ではありませんか？
音が出ない	・音量を調節してください。 ・再生したいソースに入力を切り替えてください。 ・MUTEキーを押してミュートを解除してください。 ・スピーカーとの接続をもう一度確認してください。
スピーカーシステムの片側からしか音がでない	・スピーカーコードが外れていないかチェックしてください。
リモコンが操作できない	・電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。 ・本機とのリモコンの間に障害物があると操作できません。本機の正面から5メートル以内の距離で、リモコンを本機のほうに向けて操作してください。
■CD	
ディスクを入れても再生できない	・ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
1曲しか再生できない	・1曲リピートモードを解除してください。
音飛びがする	・振動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。 ・ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。 ・キズのついたディスクは音飛びを起こすことがあります。
■チューナー	
雑音が多い	・アンテナの方向を調整してください。 ・正しく選局してください。
ブーンというノイズが聞こえる	・近くに電源ケーブルや蛍光灯がある場合は、本機からできるだけ遠ざけてください。
ステレオ放送なのにモノラルで受信される	・強制モノラル/マニュアル選局モードになっていないか確認する。強制モノラル/マニュアル選局モードになっていたら、STOPキーを押して解除します。

故障かな？と思ったら

問　題	対　応
■スピーカー 片方のサテライトスピーカーから音がでない。	・アンプの電源を切ります。サテライトスピーカーとアクースティマスの接続とアクースティマスとアンプの接続を確認してください。問題ない場合はアンプに接続されたスピーカーケーブルを一度抜いてください。例えば右のサテライトスピーカーから音が出ない場合は、対応するケーブルをアンプの「左」に接続して電源を入れます。これでサテライトスピーカーから音が出る場合はアンプの不具合が考えられます。疑いのあるチャンネルにスピーカーシステムを接続しないでください。
AM-3Ⅳシステムが作動しない。または音が歪む。	・アンプの電源を切ってAM-3Ⅳの接続をはずし正しく作動する別のアンプに接続してください。AM-3Ⅳが正しく作動した場合はアンプの不具合が考えられます。ただちにお買い上げになった販売店または弊社修理担当部門までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦コンセントから電源プラグを抜き、約1分後に接続し、もう一度操作をしてみてください。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボーズサービスセンター事業部　☎ 045-979-0821
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社　インフォメーションセンター　☎ 03-5489-0955
までご連絡ください。

仕　様

■スピーカー・システム（AM-3Ⅳ）

●総合

方式	アクースティマス
インピーダンス	6Ω
許容入力	50W（IEC-268-5）

●サテライト・スピーカー（防磁型）

ユニット	60mmドライバー×1（1本）
低磁束漏洩	キャンセリング・マグネット方式、シールド方式併用
サイズ	78（W）×78（H）×104（D）mm
重量	0.55kg

●アクースティマス（非防磁型）

ユニット	13cmドライバー×1
サイズ	321（W）×358（H）×192（D）mm
重量	6.5 kg

●付属品

- スピーカーケーブル（6m）×4本
- アクースティマス用ゴム足×4個

■ミュージックセンター（AMS-DMC）

●アンプ部

実用最大出力	20W＋20W（6Ω、1kHz）
全高調波歪率	0.1%
入力感度/入力インピーダンス	180mV/47kΩ
最大許容入力（1kHz）	3V（MD/AUX）
周波数特性	20Hz～45kHz
S/N比	60dB以上（AUX IHF-A）

●CD部

周波数特性	20Hz～20kHz　±0.5dB
出力電圧	1.9V
デジタル出力	オプティカル -18dBm、660nm発光波長
全高調波歪率	0.05%以下（1kHz/0dB）
S/N比	85dB以上
セパレーション	65dB

●FM部

受信周波数	76.0～90.0MHz（100kHzステップ）
実用感度（IHF）	15.0dBf
S/N比	67dB以上
周波数特性	30Hz～15kHz
歪率（IHF、65dBF）	0.5%以下（ステレオ 1kHz） 0.3%以下（モノラル）
アンテナインピーダンス	75Ω（不平衡）

●AM部

受信周波数	522～1629kHz（9kHzステップ）
受信感度	55dBμV/m（ループアンテナ）
全高調波歪率	1.0%以下
S/N比（80dB/m）	35dB以上

●その他

電源電圧	AC100V
電源周波数	50/60Hz
定格消費電力	45W（電気用品取締法）
電源コンセント	100W（非連動）
サイズ	185（W）×115（H）×325（D）mm
重量	3.6kg

●付属品

- オーディオピンケーブル×1本
- FM室内アンテナ×1本
- FM室内アンテナ用アダプター×1個
- リモコン×1台
- リモコン用乾電池（チェック用）単4型×2本
- AM用ループアンテナ×1個

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

BOSE®
Better sound through research®
http://www.bose.co.jp/
ボーズ株式会社
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のた予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1185
01・7-2K-D・1(I-M)